



# 出町ゆかりだより

日本共産党  
高槻市議員

発行：日本共産党高槻市議員団 出町ゆかり

連絡先：議員団控室 TEL072-674-7230 FAX072-674-3202

NO.81 2018年5月

3月議会での「文教市民委員会」のわたしの質問の概要を掲載します。

## 小学校からの英語教育について

### 子どもへの負担が大きい 英語教育

小学校から英語教育が実施され、特に5・6年生は教科として評価されることとなります。1・2年生で週2回の実施が計画されています。1回の15分間で1時間目の前や5時間目の後に実施することが考えられています。

また、3・4年生は年間35時間、5・6年生は年間70時間実施されます。英語の時間が増える代わりに何かを減らすということはありません。そのまま、授業時間が増えることとなります。資料をみると、6年間で600、700語の単語を身につけるとあります。また、中学校では小学校の学びをもとに英語の授業はほぼ英語だけで行われるとあり、市の目標値では中学校3年生の60%以上が英検3級程度とあります。

わたしは、子どもへの負担が増えることについて市はどう考えているのか、また高学年の英語教育の評価について市は「実技などのパフォーマンス」をみて数値で評価するところがあるが、具体的にどのように評価するのか、市の見解を質しました。

6月8日(金)	本会議／提案理由説明
12日(火)	本会議／質疑
14日(木)	文教市民委員会 福祉企業委員会 都市環境委員会 総務消防委員会
15日(木)	本会議／採決、 一般質問
25日(月)	本会議／一般質問
26日(火)	本会議／一般質問



### 小学校からの英語は本当に必要か？

今の日本ではどうしても英語が話せないと生活できないことはありません。母語である日本語もまだ、これからの小学生に授業として英語を教えていくことが本当にいいことなのか疑問です。しかし、実施する以上は数値目標など

にとられず、子どもの状況に合わせて実施してほしいと要望しました。小学校の英語教育は英語教員の資格をもっていない、担任の先生が英語指導員と一緒に教えることとなります。先生の負担も大変です。

ぜひ傍聴をお願いします。  
※いずれも午前10時開会です。



# 市が新駅の可能性の検討を提案

3月議会で市は、とまった農地があり、JR島本駅と高槻駅間の萩の庄に駅を新たに建設する可能性を検討すると提案しました。予定地は、調整区域で優良なま

とまった農地があり、市の計画では、またまった農地は保全するとあり、農地を守る意味から、この計画は問題です。

## 新駅の可能性は財政的に無理がある

高槻市の普通建設費は1992年が過去最高額で316億円、歳入の31.5%を

去最高額で316億円、歳入の31.5%をこの5年間、実施

された安満遺跡公園設備、学校施設の耐震化や中学校給食などは市民にとって必要なものだったと思います。また、現在耐震化のため市民会館の建て替えや市役所の耐震強化も実施中です。

また、市長は検討の結果、新駅をつくらないこともあると答弁しました。

も予定されています。JR高架化での市の負担は100億円規模になります。新駅をつくることは財政的にも無理があります。

歳入の13%でした。議会では必要な施設かどうか、規模が適切だったのか、その都度議論をしてきました。

しかし、新駅の可能性の検討や、JR京都線の高架化事業などは、今までの事業とは全く違うものです。これ以上の開発をする必要はなく、財政的にも余裕はありません。

今後、富田にある市営住宅の建て替え

2013年から小児科に茨木市、摂津市も加わり広域化され、患者数も増えています。

## 地域の声



4月に、社会福祉協議会などが中心となり、榎田田能地域でワークショップが実施されました。交通機関や介護の問題などの意見が出されたとのこと。田能地域だけでなく、5つの地域で実施してほしいとの声をお

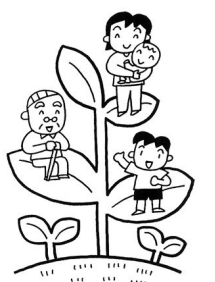
聞きしましたので、社会福祉協議会に伝えました。また、医療の面では地元の人たちの働きかけで往診診療が始められることになりました。



日本共産党の今後10年間の歳出に占める普通建設費はどのくらいを考えているかの質問に、市は10%から15%を見込んでいると答えました。

三島救命救急センターの移転が決められ、残される応急診療所はどうなるのかの声があがっています。特に、深夜での急病やけがなどの対応ができることもあり、住民にとっては必要な診療所です。

市は小児科救急医療体制を確保するため、移転も含めて関係団体と検討すると答弁しました。



## 夜間休日応急診療所の継続を